

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																						
国際鍼灸専門学校		昭和54年3月31日	藤本 武久		〒 124-0012 (住所) 東京都葛飾区立石6丁目36番7号 (電話) 03-3693-1214																																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																						
学校法人鬼木医療学園		昭和47年1月14日	鬼木 緑		〒 124-0012 (住所) 東京都葛飾区立石6丁目36番7号 (電話) 03-3693-1214																																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																					
医療	医療専門課程	本科(あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう)			平成7年文部科学省 認定	-																																					
学科の目的	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として必要な知識と技術、実践的能力を身につけること																																										
認定年月日	令和5年3月27日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
3年	昼間	162	138	0	24	0	0																																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																					
180人		92人	0人	8人	17人	25人																																					
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 各教科100点満点とし、60点以上を合格とする。 評価の方法: 各学期末、卒業期並びに臨時に科目ごとに試験を行う。																																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級 条件	卒業要件: 学業成績及び出欠の状況を総合考慮して卒業の認定を行う 進級要件: 学業成績及び出欠の状況を総合考慮して進級の認定を行う																																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 年度始めに担任との個別面談を実施、成績不良者の面談や、学生からの申し出があった場合などに随時実施			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 球技大会委員会、学園祭実行委員会、学校説明会在校生代表 ■サークル活動: 無																																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) あはき施術所、整骨院、病院、出張治療、開業、その他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																						
	■就職指導内容 就職準備セミナー、企業説明会、担任との個別相談の実施				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あん摩マッサージ指圧師</td> <td>②</td> <td>38人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>はり師</td> <td>②</td> <td>38人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>きゅう師</td> <td>②</td> <td>38人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	あん摩マッサージ指圧師	②	38人	38人	はり師	②	38人	36人	きゅう師	②	38人	36人																				
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																																						
	あん摩マッサージ指圧師	②	38人		38人																																						
はり師	②	38人	36人																																								
きゅう師	②	38人	36人																																								
■卒業者数 38 人 ■就職希望者数 26 人 ■就職者数 26 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 68 %																																											
■その他 ・進学者数: 4人 ・就職希望未定者数: 8人																																											
(令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																											
中途退学 の現状	■中途退学者 6 名 令和3年4月1日時点において、在学者95名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者89名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学力不振、経済都合			■中退率 6 %																																							
■中退防止・中退者支援のための取組 担任との個別相談、成績不良者に対する補講の実施																																											
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度			■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 令和3年度実績 2年生 8名 3年生 17名																																							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0			評価結果を掲載した ホームページURL 0																																							
当該学科の ホームページ URL	https://www.kokusaishinkyu.ac.jp https://www.kokusaishinkyu.ac.jp/college/%e5%ad%a6%e7%a7%91%e7%b4%b9%e4%bb%8b/%e6%9c%ac%e7%a7%91/																																										

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
 ③その他(民間検定等)

■自由記述欄
 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
 0

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的に教育課程編成委員会を組織し、教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は規程に定められた通り、専攻分野に関する企業・団体等との連携体制を確保し、意見や要請等を授業科目の開設や改善等の教育課程の編成に活用するため、校長のもとに設置する組織である。教育課程編成委員会での意見、提言はカリキュラム編成委員会(学科長、担当教員)において検討され、改善等の対応を実施する。最終的に、学校運営会議の承認を経て次年度の教育課程編成及び授業実施計画に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年9月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
永島 茂雄	日本鍼灸師会 理事、千葉県鍼灸師会 副会長	令和4年2月18日～令和6年2月17日(2年)	①
和田 恒彦	筑波大学理療科教員養成施設 施設長	令和4年2月18日～令和6年2月17日(2年)	②
山根 幸男	株式会社ワイズケア 代表取締役	令和4年2月18日～令和6年2月17日(2年)	③
土門 奏	土門治療院 院長	令和4年2月18日～令和6年2月17日(2年)	③
藤本 武久	国際鍼灸専門学校 校長		—
鈴木まみ子	学科長		—
和田 悠一	専任教員		—
川原田 梓	事務長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、3月)

(開催日時(実績))

令和3年度

第1回 令和3年6月 ※新型コロナウイルス感染症対策のため令和4年3月2日 15:00～16:30に延期

第2回 令和4年3月2日 ※新型コロナウイルス感染症対策のため令和4年6月8日 15:00～15:30に延期

令和4年度

第1回 令和4年6月8日 15:30～16:20

第2回 令和5年3月1日 15:00～16:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【課題1】臨床実習における企業連携

意見:学外臨床実習では臨床実習指導者講習会の受講が必要なので講習会のアナウンスをしてもらいたい。

改善策:臨床実習指導者講習会において企業より4名の推薦をいただき、令和4年6月に受講が終了した。

【課題2】その他の企業連携

意見:スポーツ現場におけるボランティア活動やトレーナー活動に関して、業団では東京マラソン等に協力しているので活用してほしい。

改善策:プロ野球トレーナー業務について、実際の試合現場を見学した(企業連携による)。

改善策:葛飾区主催のマラソン大会のボランティア参加予定であったが、コロナの影響により大会中止となった。

【今後の課題】

学外臨床実習を実施するにあたり、更なる指導者育成のため卒業生や企業に協力を要請し、臨床実習指導者講習会参加を薦める。また、老年医学における実践教育のための外部施設見学ではコロナ禍の現状では新規受け入れが難しく、状況をみながら受け入れ先と交渉を続ける必要がある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界等の社会的ニーズを踏まえて企業と連携し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、実技授業では現場で活用できる専門技術を習得し、外部臨床実習では医療の目的や機能について学びながら、医療人としての行動や考え方について習得することを目的に行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実技実習では臨床現場で活躍する教員資格のある講師に依頼し、実際の臨床に役立つ実践的な授業を行っている。評価は実技期末試験として行い、学修成果を把握している。

臨床実習(外部)では、実習全般の態度、知識、技術において6項目に分類し、4段階にて評価とコメントを頂き学内での指導・教育に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
あ・マ・指・は・き実技3	はり実技では美顔鍼、インフォームドコンセント、患者教育の方法を身に付け、解剖機能学・顔学からみた顔老化的原因説明を理解する。 アロマオイルマッサージ実技ではキャリアオイル・精油を用いたマッサージ実技、リンパ浮腫治療入門として学ぶ。	・土門治療院・佐々木鍼灸院
臨床実習1	大学施設の見学実習。あん摩マッサージ指圧、はり及びきゅう関連の大学施設を見学し、職業意識を育成する。あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師としての役割を理解し、責任と自覚を養う。	・筑波大学理療科教員養成施設 ・筑波技術大学附属東西医学統合医療センター
臨床実習2	・病院施設におけるあん摩マッサージ指圧はりきゅうの連携について学ぶ。 ・スポーツ施設におけるチームサポートの現場を学ぶ。	・東京大学医学部附属病院 ・株式会社DAH

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「教職員研修規程」を設け、企業及び研修機関等と連携し、専門分野における実務に関する知識、技術、技能、授業及び学生に対する指導力、学校教育や学校運営のマネジメントなどの専門性の修得及び向上を図ることを目的に研修を計画し実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第70回全日本鍼灸学会学術大会 福岡大会	連携企業等:	公益社団法人全日本鍼灸学会
期間:	令和3年6月4日(金)～6日(日)	対象:	専任教員(3名)
内容:	大会テーマ「健康・医療のブレークスルーと鍼灸～からだところをとらえる五感の芸術～」		

研修名:	第16回日本鍼灸師会全国大会in東京	連携企業等:	公益社団法人日本鍼灸師会
期間:	令和3年10月24日(日)～25日(月)	対象:	専任教員(2名)
内容:	大会テーマ「変わる社会、変わらぬ鍼灸 ～いまできることをかんがえる～」		
研修名:	卒後臨床研修制度トレーニングコース	連携企業等:	国立大学法人筑波技術大学
期間:	令和3年4月1日(金)～令和4年3月31日(日) 毎週1回	対象:	専任教員(1名)
内容:	教員の指導下での施術や施術補助、診察(医師)部門やリハビリ等のコメディカルの見学、カンファレンス参加等		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第44回教員研修会	連携企業等:	公益社団法人東洋療法学校協会
期間:	令和3年8月19日(木)～20日(金)	対象:	専任教員(8名)
内容:	大会テーマ「教育アップデート 新しい教育課程の運営と授業デザイン」		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	第71回全日本鍼灸学会学術大会 東京大会	連携企業等:	公益社団法人全日本鍼灸学会
期間:	令和4年6月3日(金)～5日(日)	対象:	専任教員・兼任教員
内容:	大会テーマ「現代医療における鍼灸の役割 未来に向けての鍼灸のチカラ」		
研修名:	第17回日本鍼灸師会全国大会in愛知	連携企業等:	公益社団法人日本鍼灸師会
期間:	令和4年12月3日(土)～4日(日)	対象:	専任教員・兼任教員
内容:	大会テーマ「ヒトを診る ―東洋医学の全体観―」		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第45回教員研修会	連携企業等:	公益社団法人東洋療法学校協会
期間:	令和4年8月18日(木)～19日(金)	対象:	専任教員
内容:	大会テーマ「創生～原点から新たな未来へ」教育・教員のあり方(講演)、授業に関するワークショップ		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。			
(1)学校関係者評価の基本方針			
学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。学校関係者評価委員会では自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高めると共に、委員会の設置により継続的な連携協力体制を確保し、具体的な取組みや方策の意見などを得ることにより、学校運営の更なる改善を図ることを目的とする。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		(1)教育理念・目的・育成人材像	
(2)学校運営		(2)学校運営	
(3)教育活動		(3)教育活動	
(4)学修成果		(4)学修成果	
(5)学生支援		(5)学生支援	
(6)教育環境		(6)教育環境	
(7)学生の受入れ募集		(7)学生受入・募集	
(8)財務		(8)財務	
(9)法令等の遵守		(9)法令順守	
(10)社会貢献・地域貢献		(10)社会貢献地域貢献	
(11)国際交流			
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況			
「人材ニーズや社会ニーズについて、同窓会の意見を聞く場や、同窓会との関わり合いが少ない。OBとの意見交換をすることは、就職の斡旋、学生の募集につながる。」という意見より、同窓会・卒業生との関係性を強化した。まずは、開業している卒業生の治療院(34か所)を訪問し、情報交換。同窓会の生涯教育研修の開催については会場の提供や教員などの協力体制を強化した。			

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
粕谷 大智	新潟医療福祉大学健康学科教授、本校同窓会副会長	令和3年8月23日～令和6年3月31日(3年)	卒業生
小林 潤一郎	日本鍼灸師会理事、東京都鍼灸師会副会長 小林はりきゅう院院長	令和3年8月23日～令和6年3月31日(3年)	企業等関係者
佐坂 浩二	麗澤高等学校教諭	令和3年8月23日～令和6年3月31日(3年)	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.kokusaishinkyu.ac.jp/college/情報公開/>

公表時期: 令和4年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専修学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、理解を深めるとともに、連携及び協力を推進する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育方針・沿革(学校の概要、目標)
(2) 各学科等の教育	本科(学科の教育)
(3) 教職員	教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	卒業生の紹介・進路、特別授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	1年間の行事、学校設備/附属施設
(6) 学生の生活支援	学生生活のサポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費、特待生制度、奨学金制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検評価、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校説明会))

URL: <https://www.kokusaishinkyu.ac.jp/college/>

公表時期: 令和4年9月1日(最終)

授業科目等の概要

(医療専門課程本科(あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		人文科学	この講義では、「倫理学」という学問から日常生活における倫理的判断を助ける知見を得ることを目的とする。倫理とは元来どのように考えられてきたのか(倫理の理解)、良い行為とは何か(規範倫理学)、医療従事者として身に付けるべき倫理(生命倫理)を学ぶ。	1・①	30	2	○			○			○	
2	○		社会科学	「こころ」を科学的に解明することで、他者や自分の思いや気持ちを論理的、客観的に理解することができる。この理解により、仕事や生活の場でのよりよいコミュニケーションスキルの修得をめざす。	1	30	2	○			○			○	
3	○		行動科学(コミュニケーションを含む)	職場などでの人間関係を円滑にし、また医療従事者としてのコミュニケーション力を養うためには、自分自身も含めた人間理解が必要である。様々な事例とその対応策から、自己理解、他者理解、相互理解など人間理解のテクニックとコミュニケーションに役立つスキルを学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
4	○		健康科学	健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について、自身の生活を振り返るとともに社会との関連性を再認識する。	1	30	2	○			○			○	
5	○		人間科学	ヒトの運動・スポーツには科学が密接に関わっている。健康のため、パフォーマンス発揮のため、日々のコンディショニングやトレーニング、戦術・戦略など様々な側面へ関わるスポーツ科学について実践例も交えながら学習する。	1・②	30	2	○			○			○	
6	○		自然科学	医療従事者になるための基礎知識として生物としての人体を学ぶ。高校までの生物学や化学、物理学の知識や考え方と人体のしくみとを結びつけて基礎医学への導入を行う。	1・②	30	2	○			○			○	

7	○		保健科学	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣病と健康について学び、健康が自分の生活に深く関連していることを理解する。あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師として感染症などのリスクとどう向き合うか学ぶ。命を守るため、応急救護の知識と技術を身につける。	1・①	15	1	○				○	○	○		
8	○		運動科学	球技大会では集団的スポーツの楽しさや喜びを味わうとともに、クラスの連帯を強め、よりよい人間関係を築く。スポーツボランティアは競技種目を盛り上げ、地域社会におけるスポーツ振興や健康づくりに貢献する。	2・①②	15	1	○				○	○	○		
9	○		解剖学1	人体の構造と機能の基本的な特徴について学習し、医療従事者として必要な知識を学んでいくための基礎を固める。	1・通	135	9	○				○		○		
10	○		解剖学2	人体構造の動きの基礎となる運動器を主体として基本的な位置や動きを学ぶ。	2・①	30	2	○				○		○		
11	○		生理学	人体の正常な機能、メカニズムについて学ぶ。疾病を理解するための基礎となる知識を身につける。	1・通	135	9	○				○		○		
12	○		運動学	身体運動を分析する基本的観点と専門用語を理解し、人の運動について分析し鍼灸治療に生かす。	2・③	15	1	○				○				○
13	○		病理学概論	正常に構造・機能されている生体に何らかの異常が生じ、いわゆる病気（疾病）となる。病理学概論では疾病が生じる原因を分類し、各疾病が生理機能のどこに異常が生じているかを説明する。	2・通	90	6	○				○				○
14	○		臨床医学総論	チーム医療を安全に、かつ効果的に実践するには、あはき師が適切な診察法を理解し、主たる症候に精通しておくことが必須である。診察の方法、臨床検査法、患者の心理、おもな症状の診察・治療学を学ぶ。	2・通	135	9	○				○		○		

15	○		臨床医学各論 1	整形外科疾患の症状や病態把握、適応症鑑別に有効な徒手検査法、標準治療を理解し、来院患者の多くの主訴になりうる整形外科疾患の知識を理解する。	2・ ① ②	60	4	○			○		○	
16	○		臨床医学各論 2	現代西洋医学における代表的な疾患について、その疫学、成因・病態生理、診断、治療、経過・予後について学習し、それらの基礎知識を身につけることを目的とする。本科目における知識は、臨床現場における基礎知識であり、さまざまな医療職が患者に関わるチーム医療における共通言語となり、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師が、チーム医療の一員として臨床現場に出るためには必須の知識となる。	3・ ① ②	120	8	○			○		○	
17	○		リハビリテーション医学	リハビリテーションとは身体的回復だけでなく、社会参加や職業復帰さらには心理的側面まで出来る限り最大の回復をすることを目的としており、国民の健康維持向上を図るために必要な学問である。リハビリテーション医学の知識を身につけることにより、鍼灸マッサージ師が医療従事者の一員として活躍できるような授業を行う。	2・ ① ③	60	4	○			○		○	
18	○		衛生学、公衆衛生学	健康の保持・増進を目的とした学問を理解し、様々な環境に応用される衛生学・公衆衛生学を学ぶ。	1・ ① ②	60	4	○			○		○	
19	○		関係法規	法律の基本的な事項およびあん摩マッサージ指圧、はり及びきゆうに関する法律（あはき法）について学習する。他にも関係する医師法、医療法、医薬品医療機器等法、その他の医療従事者に関する法規等について、それぞれの特徴と基本的内容について学習する。加えて、様々な事例や判例を紹介し、より理解を深められるようにする。	1・ ③	15	1	○			○		○	
20	○		医療概論（社会保障制度、職業倫理含む）	鍼灸、あん摩マッサージ指圧を学ぼうとする学生に医療の全体論を論じることによって医療とは何か、施術者と患者の間に存在する医の倫理は何かを問う。	1・ ① ③	45	3	○			○		○	
21	○		あん摩マッサージ指圧理論	あん摩マッサージ指圧の基本手技と生体作用を学ぶことで、様々な手技名や何故、あん摩マッサージ指圧が疾患の症状を軽減できるのかを理解する。	1・ ② ③	45	3	○			○		○	

22	○		はり理論・ きゅう理論	鍼灸の種類や術式、鍼灸施術に対する基礎知識を身に着ける。鍼及び灸のリスク管理について理解する。生体の基礎知識、治効機序について理解を深める	2・ ① ②	60	4	○			○	○		
23	○		東洋医学概論 1	東洋医学がどのような概念で構成されている医学なのかを理解するための導入授業であり、全体像を捉え、東洋医学臨床論や実際の臨床に繋がる基本知識を学ぶ。	1・ 通	60	4	○			○	○		
24	○		東洋医学概論 2	東洋医学がどのような概念で構成されている医学なのかを理解するための導入授業であり、全体像を捉え、東洋医学臨床論や実際の臨床に繋がる基本知識を学ぶ。	2・ ② ③	45	3	○			○	○		
25	○		経絡経穴概論 1	1年次では経絡の概念や、経穴の名称・部位を学ぶ。 経絡経穴学は、鍼灸医学の基本をなすものであり他の授業科目との関連が深い。 西洋医学系の解剖学をはじめ、東洋医学概論、東洋医学臨床論等の関連がある。	1・ ② ③	45	3	○			○	○		
26	○		経絡経穴概論 2	経絡・経穴は鍼灸の重要な柱のひとつである。2006年には、経穴の標準部位が制定され世界の基準が統一された。また、体内と皮膚との関係に一定の法則がありこれを医学としてまとめたものが鍼灸学の基礎となる経絡経穴学説である。経絡経穴学を学ぶことにより東洋医学の知識を深め、鍼灸治療ができるようになるための授業を行う。	2・ ① ③	45	3	○			○		○	
27	○		経絡経穴概論 3	経絡経穴の取穴法・部位を復習し、知識の定着を図る。臨床や国家試験対策に必要な西洋医学の解剖学や東洋医学臨床との関連についても知識を深める。	3・ ① ②	45	3	○			○	○		
28	○		東洋医学臨床論 (あはき適応を含む)	これまでに学んだ臨床医学総論や臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴概論などの内容を踏まえつつ、主要な症候別に東西両医学の考え方を理解し、あん摩マッサージ指圧、鍼灸による治療計画を考えることが出来るようになることを目的とする。 また治療の適応、不適応を判断し、安全で安心できる施術が行えることを目的とする。	3・ ① ②	105	7	○			○	○		
29	○		病態生理学	病態生理学とは、生体の正常機能を学ぶ『生理学』に対して、その破綻により症状や疾病が引き起こされる機序や経過を理解するための学問である。人が病気になったとき、身体機能がどのような状態になっているのか、また異常を起こしている原因を学んでいく。□	2・ ③	30	2	○			○	○		

30	○		生体観察	人体を体表から解剖学的に観察することで、生体の体表や内部の形と構造、および器官の機能を理解する。	2・②	30	2	○			○	○		
31	○		臨床演習	あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの臨床において取り扱う機会の多い運動器疾患について、問診、病態把握、診察法、治療法を学び、基礎臨床能力を身に付ける。1年次に学んだ解剖学、生理学を基礎として、人体の構造と機能、作用を応用し、疾患や症状に対する理解を深めていく。	2・①	30	2	○			○	○		
32	○		社会あん摩 マッサージ指 圧学、社会は り学、社会 きゅう学	あはき師を取り巻く環境の変化や社会保障政策、社会構造を考慮し学習していく。	2・②	30	2	○			○		○	
33	○		あ・マ・指・ は・き実技1	肩背部、背腰部、各部位（上肢、下肢、腰部、頸部）のあん摩法を学ぶ。施術の際の基本動作や施術の注意点などを中心に学ぶ。基本的な鍼・灸の技術を習得し、安全で適切な治療の基本を学ぶ。また更に医療従事者としての心構えや態度、感染防止を中心とした衛生面・安全に配慮した行動を身につけることを目的とする。	1・通	150	5				○	○	○	○
34	○		あ・マ・指・ は・き実技2	鍼実技では低周波鍼通電療法（以下パルス）の理解と実施。理学的検査法（以下PE）の適用。大関節や頸椎の触診と触察。あん摩マッサージ指圧実技では基本手技を中心に理解、実践ができるように学習する。医療従事者であるという自覚を持ち、衛生観念をはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、リスクマネジメントなど施術者としての基本的な注意事項について学習する。	2・通	240	8				○	○	○	○
35	○		あ・マ・指・ は・き実技3	2年生までに学んだ、基礎実技を向上させ、臨床に応用できる技術を学ぶ。医療面接、身体診察、その他の情報から病態把握や機能評価を行い、最終的な治療部位の決定までの実践的な技術を身につける。キャリアオイル・精油を用いたマッサージ実技 リンパ浮腫治療入門。美顔鍼治療をおこなう為の基本的知識と技術習得。あん摩マッサージ指圧鍼灸師としての超音波画像診断装置の基礎知識を身に付ける。	3・①②	210	7				○	○	○	○

36	○		臨床実習 1	施術所の現場を体感し、患者を実際に見ることで学習への意欲を高める。医療従事者として患者に対する態度、気配り、マナーを身に付ける。医療器具・鍼・灸について学ぶ。消毒に関する知識を身に付け実践する。守秘義務、個人情報の管理について学ぶ。血圧について学ぶ。骨、骨格筋を学び、触知できるようにする。	1・通	45	1			○	○	○	○
37	○		臨床実習 2	グループごとに教員の指導のもとで施術活動の補助を行う。患者を想定して、臨床で遭遇する疾患に対する医療面接の仕方、徒手検査、触察法、治療法を行う。	2・通	90	2			○	○	○	○
38	○		臨床実習 3	西洋医学、東洋医学をベースに附属治療所において教員の指導下、実際の患者に対し医療面接をはじめとする診察を行い、病態を推測しその内容を詳細に記録する。疾患を想定し、医療面接、理学的検査、病態把握、鍼灸治療、評価を行う。	3・①②	45	1			○	○	○	
39	○		東西医学入門 (あはき史含む)	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうは、伝統医療として経験が重視される施術であり、あん摩マッサージ指圧学、はり・きゅう学、医学及び人間教育等の学習が総合されて充実したものとなるよう、総合的に理解する。そのために、東洋医学と西洋医学の統合教育の入門として、2年次以降に学ぶ専門基礎分野並びに専門分野の各教科に対して教育効果が著明に高まるよう東西医学を概観し、医療者としてふさわしい人間力と教養を身に付けるために配当された本校独自の科目である。	1・①	30	2	○		○	○		
40	○		生理学特講	生理学は医療従事者として重要な基礎医学である。生理学は生体の機能とそのメカニズムを解明する学問であり、この授業では人体の機能とメカニズムについて学ぶ。生体の正常な働きや生命の基本機構を細胞、組織、器官、の各レベルでのメカニズムを解明するとともに、個体レベルにおける生命活動、内部環境の恒常性の維持のメカニズムを学んでいく。	3・①②	90	6	○		○	○		
41	○		解剖学特講	医学を学ぶための基礎として、人体について細胞から個体までの構造と機能を理解し、考察できる能力を身に付ける。	3・①②	120	8	○		○		○	
42	○		東洋医学総合特講義	最終学年として、東洋医学と西洋医学の統合教育を総合的に理解する。そのために、これまで学習した各教科のまとめとして、教育効果が著明に高まるよう東西医学を概観し、医療者としてふさわしい人間力と臨床力を身に付けるために配当された本校独自の科目である。	3・③	150	10	○		○	○	○	
合計					42 科目	162 (2850) 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：全ての科目を履修すること	1 学年の学期区分	3 期
履修方法：授業に出席し、試験の結果が60点以上であること	1 学期の授業期間	14 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。